

追悼 前会長、名誉会員 浅田 長平君

本会前会長、名誉会員浅田長平君は、昭和45年10月21日午前6時33分急性心不全のため神戸市東灘区御影町西平野字西松本5-1の自宅で逝去せられました。

ここに同君の冥福を祈り、つつしんで哀悼の意を表します。



経 歴

氏は、明治44年京都帝国大学を卒業と同時に神戸製鋼に入社、昭和4年取締役、同9年常務、同18年専務、そして20年9月終戦と同時に社長に就任、21年12月公職追放にあい一時辞任したが、27年再び社長として復帰し、33年会長、40年相談役となり現在にいたつていた。本会では、昭和30年4月名誉会員に推挙され、昭和35年4月～37年3月には会長として活躍した。

この間、昭和19年に緑綬褒章、34年に渡辺義介賞、日本溶接学会賞、藍綬褒章、39年に勲二等瑞宝章、42年にフランスのオフィシエド・ロイドル・ナショナル・デュメリット賞、43年に俵賞の各賞を受けている。

弔 辞

株式会社神戸製鋼所相談役日本鉄鋼協会前会長評議員浅田長平君の訃報に接し哀悼にたえず謹んで霊前に弔辞を呈します。

君は、明治44年京都帝国大学理工科採鉱冶金卒業後直ちに株式会社神戸製鋼所に入社され、大正15年製鉄部長、昭和20年社長に就任、追放を経て27年再度社長に就任され、33年会長、40年に相談役となりました。

この間、59年の長期間に亘り鉄鋼業の育成伸長、学会の指導、発展に力を尽されました。

君は官営製鉄所であつた八幡製鉄所以外に製鉄業が成立しうるかどうか危ぶまれた民間鉄鋼業の揺籃期に神戸製鋼所に入社され同社の発展に献身し、これより民間に近代的製鉄業を創設することに力を尽されました。

また、終戦後壊滅状態にあつた日本の産業を復興させる基盤となるものは鉄鋼業の再建であることを洞察され、いち早く同社の平炉に火を入れ関西地区鉄鋼業の立上りを促進されました。これは戦後における鉄鋼業のあり方を示す原動力となりました。

昭和35年君は日本鉄鋼協会の会長にご就任になりました。当時鉄鋼協会は規模が小さく、わが国鉄鋼業の学術技術の進歩発達を図ろうとする本来の目的を達成するに十分な活動をなしえない状況にありました。君は会長就任と同時に学会基礎の確立こそ鉄鋼業発展の原動力をなすとの認識の上に立つて協会の規模を拡大し活動を強化することを提唱され、関係各方面の賛同をえて鉄鋼協会の画期的拡充強化を実現されました。

この基盤の確立により鉄鋼協会は順調に発展し、今日では日本鉄鋼業を支える学会として国際的にも認められるに至っております。

今日日本の鉄鋼業は順調な発展のうちにも将来幾多の困難が予想され、君の卓見、洞察力をますます必要とするとき忽然として永眠されましたことは真に哀惜にたえないところであります。ここに日本鉄鋼協会を代表し君の遺された幾多のご業績に対し深甚の敬意を表し謹んでご冥福をお祈りいたします。

昭和45年10月28日

社団法人日本鉄鋼協会会長 的 場 幸 雄